

週報 寫眞

編輯部報情閣内
ンセ十・號一冊第 日四十月九

滿洲建設の巨歩



奉公が笑顔で出来る
貯蓄債券



支那事變 貯蓄債券

賣出期間
十月五日
二十日迄

四百五金増割等一 四百五枚一
行銀業勸本日 省 藏 太



ここに見る滿洲國の新しい成長力、この荒涼とした風景に、けふの大同大街が現出した後をたづねやう。

國庫設計事務所と、大同大街の建設は、は走り、起すは、その互を離した。

先づ、建築上、建築費が底とされ、鐵道は四週八通し、建設の基礎が出来た五年間の大同大街

かくして、わが五、六年の間に、大同大街は素晴らしい成長を遂げた。第一、完成も近い。この街景、



伸びる樂土最近の滿洲 對滿事務局

國民のすべての眼が漢口附近に集中されてゐる今、一時滿洲國境張鼓峰事件に不氣味な緊張がたよつたが、國內に少しの不安も動搖もなく、聖戰の軍を進めつゝあるのは、一つには滿洲國の毅然たる態度と毅然たる實力に負つてゐる。

滿洲事變後六ヶ年、あらゆる努力の結果、滿洲國は今や眞に王道樂土、世界的滿洲國になりつゝある。

治安の確保

事變當初匪賊は三十六萬を超えといはれたが現在ではもう一萬以下に減少して

了つた。舊式匪賊はすっかりその影をひそめ、共匪匪だけが三三省や東遼道山林地帯に蠢動してゐるにすぎず以前は、あつた鐵道の被害等は全くその跡を断つに至つた。これは實に、關東軍の派ぐましい討伐の努力と、滿洲國軍及び地方官憲制度の整備と、鐵路愛護自警村の充實とによるものに他ならない。したがつて滿洲國に關する治安上の不安については從來の考へを一掃する必要がある。

産業の勃興

治安の確保に伴ひ資源の開発は促進された。調査が進めば進むほど、滿洲は重要な資源の豊かなことが判つてきた。

滿洲國政府を中心とし、關東軍、滿鐵等の研究に基き、昭和十二年（康德四年）、産業開發五ヶ年計畫が生れた。然し國々第一

日本軍司令部布告
大日本駐東軍司令部 木庄 宣
昭和六年九月十八日

昭和六年九月十八日、朝鮮事變に際して、滿洲國全土に激戦の砲火が炸裂した。滿洲事變勃發紀念の日が、支那事變二年目の秋と共に感慨よく近づてきた。

滿洲事變勃發と同時に、滿洲國住民に向つて、益々帝國の信譽を顯明し治安を確保した。關東軍本庄司令官の布告。



五年前の茫漠たる旗野に出現した、國都新京の盛衰。市公署屋上より西北方を望む。

- 1 忠霊塔
- 2 満洲中央銀行
- 3 満洲電信電話株式会社
- 4 東洋拓殖株式会社
- 5 康徳會館
- 6 三井百貨店
- 7 東本願寺別院
- 8 東京海上火災保険株式会社
- 9 首都警察署



〈新 京 築〉



工事中の大回廊から大同大街を望む(上) 建設途上の大同廣場附近。(中) 完成された大同廣場。(下)



皇國日本の生命線を確保し、五族協和の干道業士建設のため、壯烈、滿洲事變の華と放つた皇軍將士の英霊を祀る忠霊塔は毅然として天空に誇り立ち伸びる滿洲の行手を見まもつてゐる。われわれは、大陸に眠る偉大な前衛將士の犠牲を無にしてはならぬ。

秋色の雲が大陸の秋を彩る空の下、傳統の束縛の無い、ひたすら未来を築く生活が、飛躍と誇り溢れてゐる。 北安路の市営住宅。

年度中に支那事變の勃發をはじめ新しい状態の變化は、その計畫の積極的擴充を必要とするに至つたので、第二年度以降に對し、第一年度の實績を參照し、全面的に擴大修正を行った。(記事末の表參照)この修正計畫は主として工業部門の増産を目ざすものであるが、農産部門の増産に關しても、農家經濟の實況を考慮して、全面的に生産の擴充を圖り特需農産物の取得のみに偏しないやうに留意されてゐる。

現在の成績を見ると、このうち鐵、石炭の増産計畫は豫期以上の成績を示し、その他鐵、農産、林産、畜産等各部門にわたり目麗ましい躍進を示してゐる。

したがつて貿易的發展も著しいものがあるが、建設にもなほ輸入が多い關係上入超の傾きがあるのは當然である。然し之も對獨、對伊の協定によつて幾分緩和され、滿洲國商品は世界市場に熾々と登場してきてゐる。

交通の整備

産業の開發と切つても切れないのは交通である。すでに、鐵道は一萬軒、自動車路は七千軒、國道は三萬軒、滿洲帝國國境前に比べるると全く隔世の感がある。

同時に、有線無線の通信網の改善、放送事業の普及、航空網の整備に近代文明國家としての形勢はすつかりそなはつた。

移民の成功

人口問題から見ても、日本人に向つて大きな手をひろげ、食べてゆく所、生きてゆく所を提供しようといふ心からわれわれ日本人を歓迎してくれるのは世界にたいし滿洲國一つあるのみである。昭和七年第一次移民を送つて以來、現在では滿洲國拓殖青少年義勇隊及び第七次移民までが彼らの移民村を建設する爲血みどろの活動をつづけ、第二の故郷・安住の地を見出してゐる。(優良な土地が約三萬町歩開放されてゐるが、その中既墾地はまだ千二百萬町歩にすぎない。)こゝに來るまでには第一次、第二次移民以來艱難苦闘を経て若干の失敗の苦杯を嘗めながらも、日本農民

の不屈の精神は遂に國家の運命をも決するこの大試練、大宿題を見ごと克服、解決しつゝあるのである。都會の五族協和でなく、土に根ざした五族協和が生れてゐるのだ。

☆

滿洲國は國家組織を改善し、地方行政を刷新し、又金融を統制し、財政を確立し、更に昭和十二年十二月には治外法權の全面的撤廢と滿洲國地方行政の移讓完了によつて獨立國家としての主權はこゝに全く完整なものとなつた。

そして、滿洲國の治安は鞏固、産業がおこれば、そこには當然文化が榮えなければならぬ。こゝにおいてはじめて、眞の日滿不可分・一徳一心の實はあけられる。東洋の新しい明るい秩序を求めて日本は今や東亞の盟主として全力をあげ戦つてゐるが、この際、日滿兩國は愈々提携協力して東亞の和平と福祉増進に努力しなければならぬのである。

修正五箇年計畫開發目標

品名	修正前開發目標	修正後開發目標
鐵	約 五〇〇萬噸	約 一、二〇〇萬噸
石炭	約 三、五〇〇萬噸	約 一、〇〇〇萬噸
鋼材	約 一、〇〇〇萬噸	約 二、五〇〇萬噸
電力	約 一、〇〇〇萬瓩	約 二、〇〇〇萬瓩
農産	約 一、〇〇〇萬噸	約 一、五〇〇萬噸
林産	約 一、〇〇〇萬噸	約 一、五〇〇萬噸
畜産	約 一、〇〇〇萬噸	約 一、五〇〇萬噸
工業	約 一、〇〇〇萬噸	約 一、五〇〇萬噸
交通	約 一、〇〇〇萬噸	約 一、五〇〇萬噸
教育	約 一、〇〇〇萬噸	約 一、五〇〇萬噸
衛生	約 一、〇〇〇萬噸	約 一、五〇〇萬噸
福利	約 一、〇〇〇萬噸	約 一、五〇〇萬噸
その他	約 一、〇〇〇萬噸	約 一、五〇〇萬噸

(注) 農産物の開發目標は康徳五年度分(括弧内)は康徳八年度分を示す。



新装の
満洲國軍

満洲國軍は現在約八萬、舊軍裝時代の親分子分式の私兵制度の弊風を逐次清算して今や規律あり統一ある軍隊となるに至つた。全軍を數軍管區に分つて配置し、尙直轄軍として靖安軍等がある。其の外に江上部隊(海軍)があつて松花江、黑龍江及びウスリー江等の警備に當つてゐる。又時局に即應して高射砲隊、飛行隊を備へる等訓練に於て裝備に於て漸次良好となりつゝある。

起床ラッパ。
禁衛隊兵營の一日の生活が始まる。

壕をおどり越えて突撃にうつる。國軍歩兵部隊の突撃訓練。



嵐爽と白馬にむち打つ、満洲國興安騎兵隊の活躍ぶり。

果しなくひろがる高梁をわけて進軍する國軍装甲車の威容。

新京南嶺禁煙で演習中の國軍砲兵隊。



鉄創術に新らしい満洲現をみがく。

満洲國江防艦隊の偽容。ハルビン附近、松花江大橋橋がはるか後にかいつてゐる。

撮影
満洲國通信社

江上部隊の射撃練習。





⇨ 選ばれた日本青年のたくましさ
たのもしさ。不屈の意志と、燃え
る理想をみなぎらせ、「千布摩探」
に象へるこの身体が、明日の満洲
國をしっかりと築くのだ。



大日本帝國は、日本の大學
専門學校卒業者の滿洲國官
史養成學府で、日本の選ば
れた青年學徒は、滿洲國の
よき指導者となるべく、研
鑽を積んでゐる。



↑ いつでも一軍
の指揮官とわれ
るやう、軍事教
練も國軍に劣ら
ぬ真剣さで學ぶ
くつと腕むねさ
しにも、無敵皇
軍さながらのお
もかけがある。

↑ 強い肉體は、
強い精神をつく
る。校庭になら
んで、たくまし
い上半身も誇ら
かに、力一杯の
體操。



⇨ 大陸滿洲國では、馬が日常生活
に深く入りこんでゐる。驛馬に乗
つて、馬術を習ふ、大同學院學生
達。



年 青 族 五 ふ 擔 を 來 未



大陸の學園にふさはしく、廣袤六十五萬坪の大野原農園では、正しい大陸の農業政策を實踐に依つて學ぶべく、馬を御し、銃を押す。ここに耕す一畝のうねは、明日の滿洲農民を養ふ。三千萬町歩の光となるのだ。

撮影 滿洲通信社



自習室に机を並べて、亞細亞建設の理論を究明する日露學生。亞細亞に生きる民族の理想は、かうして日常生活の隅々まで美しく輝く。新世紀をひらく力は、かくたく練られてゆく。

五族協和、王道榮上の新國家、わが滿洲國の未來をなつて立つ、日(内地)鮮(蒙)滿、蒙、白蒙の青年四十一名が、その高邁な知性と情熱を傾けて學ぶ建國大學。建國精神は、ここに、更に新しき光を放ち、大亞細亞建設の指導者は、ここから眞立つ



六時二十分、五族の選ばれた青年が、心を溶け合はせ集團生活を行ふ。榮舎の静寂は、はるか皇國日本を拜すと共に滿洲國皇帝に忠誠を誓ひ、けふの一日に努力をうちこむ精神をしっかりと胸にしみつ

五時半、朝の冷気をふるはして、靈頭のうららめしき起床の大大鼓は、學徒の夢を覺ます。窓に射す黎明の光、朝は、學徒の胸をどろろと未來の象徴だ。

創造に學ぶ日本精神、滿蒙學徒も、白蒙學徒も、ぐつと竹刀を握りしめ、氣合も鋭く、道場一杯に足踏み鳴らし、心身を練る。



白米六分に麥四分の軍械式食事に培はれる新興滿洲の推進力。かうして明日に立つ、若き人の肉體は強く、魂は成長してゆく。滿洲國建設の頭腦、青年大陸の前進、萬歳！





拓く大陸日本

編影
及 滿洲
・ 國通信社
・ 廣澤章治



□ 口滿高きるがへるところ、産業五ヶ年計書の二年目を成功裡にたゞかひなく力が、雲のごとく湧きたつ。五族協和の先遣部隊、わが移民團に、産業開發の榮冠をかかげ。

□ 青春を民族發展のためかひに掛け、骨を滿蒙の土に埋めよう、と悲壯な決意をもつて故國を去つた滿蒙開拓青少年義勇隊は、北滿の曠野にその若々しい力を根張りうちこんでゐる。内地で訓練した宿舍建築中の青少年移民達。

□ 三江省輝川縣水豐鎮に入植した第一次移民團築村が、血の滲む努力をもつて苦闘の建設史を編み、滿洲移民の悲劇論を征服したその功績は大きく、新日本の黎明期を燦然と飾つてゐる。

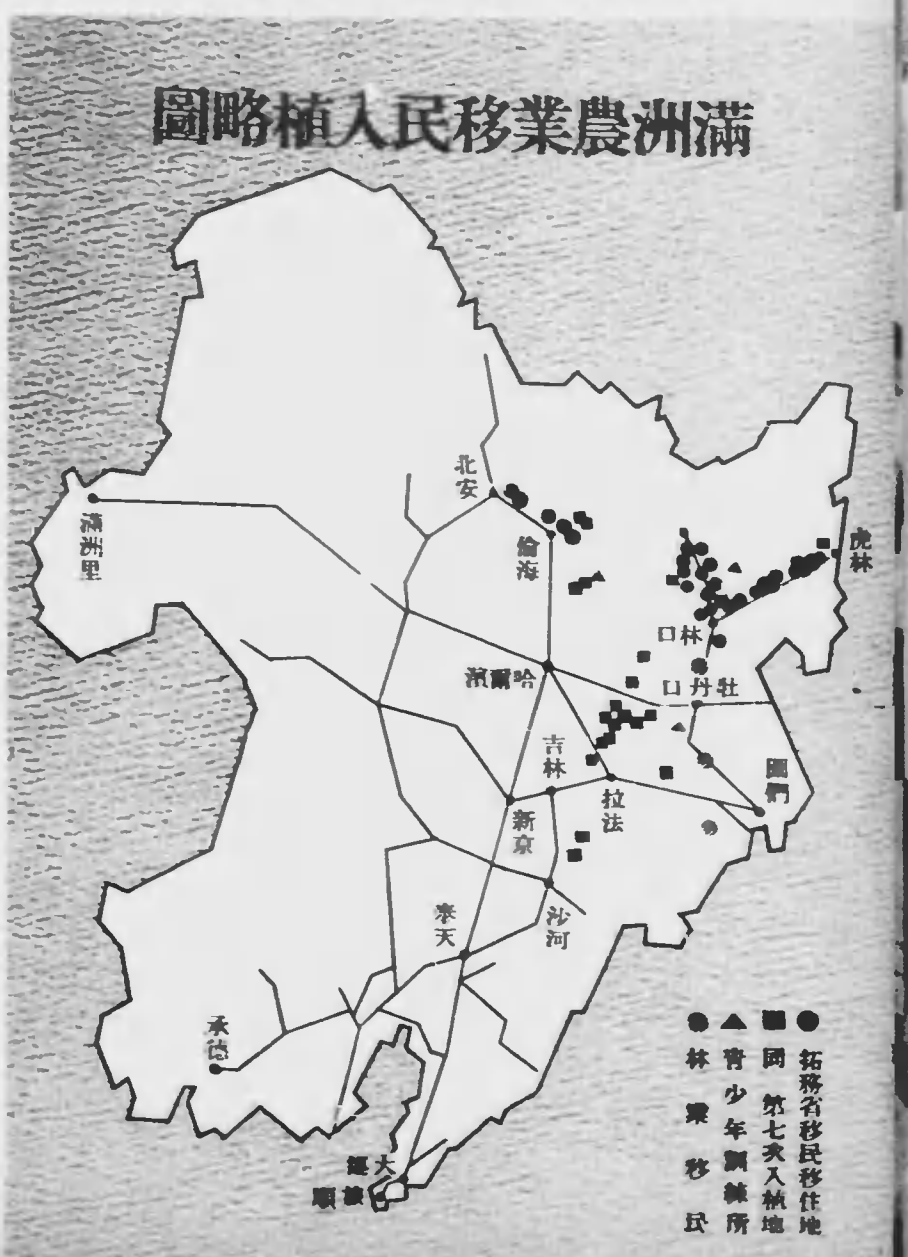
□ はてしなく擴がる原野にトラクター、鑿岩機は縱横に駆けめぐり、既に千二百餘畝の耕地は開墾された。行け、滿洲へ！大陸の沃野は、行きづまつた日本の農村に、新時代の大きな手をひろげてゐる。



□ 放牧地に草をはむ種羊の群、はるか、移民村は丘の起伏の中にしづみ、地平遠く、然れ秋の雲は走る。今大陸は、われらの憧れを裏切らぬ。内地の農民諸君、大陸日本の前衛となつて、滿洲へ行かう！

□ 匪賊とたゞかひ、落伍者が次々と出た困難な時期を、ぐつと齒を食ひしげつて稼へてきた築村、今先驅者の忍苦が大きな實を結びつつある耕地の彼方に、けふも、日輪は昇り、大陸のさかんなる成長を呼ぶ。

く 續へ頁次





撮影
及・滿洲國通信社
飯澤章治



北滿の多角経営には、從來から相當の隆盛に行はれてきたが、最近の移住は、遠からず移民村の名を冠したつて、滿蒙を旅ゆく人々のなつかしい土産となるに違ひない。

匪賊の襲撃に抗戦しながら、農機を積り、相當の落伍者まで出した第二次移住も、先驅者の勞苦も、見事な成果を以て酬ひられ、すくなく大陸型に伸び育つた第二世も頼もしく王道樂土を願歌しつづつある。



農閑期には、北滿の移民村の各戸に飼はれる綿羊から刈りつた羊毛で、ホムムスパンを織るのが、入植婦人の仕事だ。つむぎ車は、創造のよろこびをのせて、静かな日だまりに転る。

未だ千萬町歩の沃野が、手を擧げて待つてゐる滿洲の大地。第一次、二次移民時代の苦しみ、悩みは、先驅者の古い昔語りとして残され、今、農村文化の中心に、移民村を中心として、營々と建設されつつある。營々と建設されつつある。營々と建設されつつある。營々と建設されつつある。

農民に與へられた最も悪い條件の中で生きてゐるやうな、東北の隅津から入植した移民達は、滿洲に來て初めて、生産者の歡喜をしみじみと味はつたといふ。長い忍従と困苦の暗い蔭をぬぐひ去つて、元氣一杯に働く、津輕の林業移民達。

滿洲國の正しい指導、じつくりと腰を下した建設の使命は、移民第二世の肩にかかつてゐる。移民村には、立派な小学校が建てられ、大陸の子供達は、懸命に學び、故國にも胸けと聲をそらへて歌ふ。われら一億万人の歌一億國行進曲。



入植當時、移民をなやましめるには、衛生設備の充實、精神的な方面では屯墾病で悩んだ。然し、今では屯墾病は醫藥機關の建設で、安定、豊富な文化施設によつて、その後を断つやうになりつゝある。



年二第畫計

4 昭和製鋼所の製鋼工場
5 農産物の首位を占める大豆、年々輸出三億圓に近く、滿洲國經濟に大きい役割を演じてゐる。
6 撫順炭礦の露天採掘。
7 刈りとつた羊毛の山。
8 旅順双島嶼の鹽田。
9 綿花の荷造、大連近郊。
10 高粱の牧種（青島綏沿線）。
11 大豆、高粱につく滿洲の重要農産物。

社 會 式 株 資 鐵 鋼 滿 洲 製 鋼
社 信 通 銀 洲 滿 郵

年々五業産

工業國であるのに重要な物資が乏しい日本と、石炭、鐵、銅、ガソリンといつた貴重な物資を豊富に提供する滿洲國の間は、經濟生活の點から見ても決して不可分關係にあり、互力なプロダクトとなつて互らに補ひ合つてゆかなければならぬ。調査に莫大な金を費すのみでとかく、生産されがちな大豆、高粱の牧種もその豊富さがやうやく判り、今では修正五ヶ年計畫の下に、農と生業の完備と歩調を合せて新しい開發の道を出してゐるのである。同時に又、鐵道も産業開發、國防強化の鍵に當つて鐵道と共に急速のびてゆく。



譜画謠歌民

定 撥 局 送 放

二
ごらんよ
坊やあ
の山



三
ごらんよ
坊やあ
の山

三
ごらんよ
坊やあ
の山

一
ごらんよ
坊やあ
の山

母の歌

坂谷節子作詞
橋本四郎作曲



輸出振興に

物資充足に

重要な役割を演ずる



東亞交通の第一線に立つ

近海郵船

寫眞週報 昭和十三年二月十二日 第三種郵便物認可 昭和十三年九月十四日發行 (每週二回水曜日發行) 第一號

(本書の大きさは規定規格A4・「週報」倍判)